

2013 Vol.3特集「家庭学習で学ぶ意欲を伸ばす」へのご意見

このコーナーでは、編集部へ寄せられた読者の先生方からのご意見をご紹介します。

※「VIEW21」小学版のバックナンバーは「ベネッセ教育総合研究所」ウェブサイト(<http://berd.benesse.jp>)でご覧いただけます。

◎家庭学習の充実は、本校でも喫緊の課題です。8割の子どもに有効な方法であっても、本当に改善しなくてはならない問題を抱えているのは残りの2割であり、この子どもたちにとって有効な方法にしなければならないと思います。
[京都府／R小学校]

◎本校は小中一貫校で、9年生（中学3年生）が自分の進路実現に向けて計画を立てて自学自習に取り組めるように、時間の目安などを示した家庭学習の手引きを小学1年生から配布しています。しかし、なかなか進まないのが現状であり、まだまだ受け身なところがあります。まず日々の授業に興味を持たせること、保護者への十分な説明、家庭学習計画やチェックカードの活用などによる振り返り、昼学習、意欲を高めるための次の授業に結び付く課題提示など、まだまだ工夫できることがあると分かりました。
[大阪府／T小学校]

◎神奈川県川崎市立南百合丘小学校のICTの活用は、時代の先端を行く取り組みであり、強い関心を持ちました。ICTは若手教師が得意かと思いますが、授業本来の進め方をベテラン教師と融合していけば、良い授業が出来ると思いました。従来のノートやプリントが適している活動があると気付くことが、今後の発展につながると思います。決してICTありきではなく、子どもありきであることが大切だと思います。
[神奈川県／H小学校]

◎早稲田大教職大学院の田中博之教授が提示された家庭学習のあり方は、現在の状況を踏まえた分かりやすいものでした。家庭学習と授業の内容がリンクされることが

土台であり、それによる活用型学力の育成や自己マネジメント力の育成などが大切であること、また保護者の3つの教育的機能をしっかり認識した上で働き掛けることの大切さが分かりました。
[鹿児島県／K小学校]

◎「私を育てたあの時代、あの出会い」の京都府京都市立高倉小学校の門田真澄校長の記事に書かれていた、「校長として教職員を大切にすれば、教職員は子どもを大切にすること」という言葉が心に強く響きました。経営の基本にも通じると感じます。社長が社員を大切にすると社員はお客様を大切にします。例えば結果を出している民間企業の社員との交流を深めて、授業力だけでなく、幅広く識見を深めることで、子どもや保護者の信頼を得られるのではないかと改めて感じました。
[北海道／M小学校]

◎「Benesse 発 これからの教育」で、東京都多摩市立南鶴牧小学校が実践されている、外国の同世代の子どもと行う協働作業が心に残りました。文化や生活を学ぶのではなく、外国の子どもと協働して制作することで、結果的に自国の文化と相手の文化を比較しながら、肯定的に学ぶことが出来るのだと思いました。
[岩手県／T小学校]

◎小中連携の意義はよく聞き、また、中学校の教師が小学校で外国語活動の授業をする例もよくあります。しかし、「つながる学校と家庭の学び」の佐賀県伊万里市立南波多小学校のように、小学校の教師が「乗り入れ授業」をする例はあまり聞いたことがなく、保護者も巻き込んだ実践は参考になりました。
[山梨県／I小学校]

子どもは未来

ベネッセ教育総合研究所は、
子どもたちの成長に寄り添う研究と
社会への発信を通して、
一人ひとりが学びに向かい、
今と未来を“よく生きる”ことに
貢献することを目指しています。

ベネッセ教育総合研究所

編集後記

今回の取材でも、さまざまな学校の授業や日常の様子を拝見させていただきました。ある学校では玄関をくぐるなり、「おはようございます！」と大勢の子どもたちからのあいさつと笑顔で歓迎され、ある学校では休み時間に教室が揺れるほどの歌声が響いていました。学校生活における子どもたちの様子一つひとつが、先生の日頃のご指導や家庭・地域との連携の賜物であると感じました。(杉田)

VIEW21 小学版 2013 Vol.4

2014年2月17日発行／通巻第39号

発行人 岡田晴奈
編集人 谷山和成
発行所 (株)ベネッセコーポレーション
ベネッセ教育総合研究所

◎お問い合わせ先

情報編集室
〒206-8686
東京都多摩市落合1-34
電話 042-311-3390

印刷製本 凸版印刷(株)
編集協力 (有)ペンダコ、丹羽三千代
執筆協力 二宮良太
撮影協力 荒川潤、川上一生、南弘幸
イラスト協力 幸剛

©Benesse Corporation 2014